

子供と地域の心をつなぐ「花いっぱい野菜いっぱい運動」

周南市立久米小学校

1 はじめに

コミュニティ・スクールである本校は、児童をはじめ地域の方の作品を 展示する「久米地区市民ギャラリーin 久米小」を開催しており、今年度で5年目を迎える。この市民ギャラリーは、その名の通り、「久米 地区の市民ギャラリーを久米小学校で開催する」というところに意義があり、久米地区及びその近隣の市民やグループ、学校等から作品を募り、コミュニティ・ルームと図工室に展示し、保護者や地域に呼びかけている。

昨年度はコロナ禍であったが、この「久米地区市民ギャラリーin 久米小」は感染症対策を施しながら開催方法を工夫して開催された。しかしながら、多数の参観者が室内に集まることに関しては十分な配慮が必要だと、事後の反省会においても指摘された。

今年度も残念ながらコロナは収束しておらず、開催には相応の対応が必要である。

そこで、今年度は学校花壇や学年花壇をギャラリーの一部として開催する野外ギャラリー会場を計画した。例年の開催日にとらわれず、一年を通して野外ギャラリーとして地域に開放し、地域と学校をつなぐ「野菜いっぱい花いっぱいギャラリー」として企画の幅を広げ、活動を通して地域との連携を深め、地域活性化を図った。

2 活動の概要

(1) 野菜いっぱい運動

野菜いっぱい運動は、主に2年生と支援学級の児童が、それぞれの生活科の学習と自立活動の学習として取り組んだ。

例年行っている活動であるが、今回は野外ギャラリーとしての一面も意識し、野菜のお世話の様子も見ていただけるように、お世話の様子をホームページの動画紹介などを活用して配信した。



トマトと豆の苗つけ



また、花壇の一部を畑として活用し、見に来てくださった地域の方々が、花壇の花を楽しむと共に、野菜の成長の様子も楽しんでいただけるように工夫している。

2月には、収穫した野菜を販売する学習も行った。地域の方々も参加していただけるように、参観日を使っての活動を計画していたが、新型コロナのまん延防止期間と重なったため、職員を対象にした販売活動となった。

用意していた野菜や、記念グッズも完売し、子供たちは大喜びだった。



(2) 花いっぱい運動

花いっぱい運動は、園芸委員会を中心に全校活動として取り組んだ。

野外ギャラリーとしては、正門から東門までの区間にある学年花壇で、季節の花を育てて観賞できるようにした。

長期休業中には、育友会の応援も借りながら毎日欠かさず水やりをして、お世話を欠かさなかった。その甲斐あって、周南市の花壇コンクールでは、久米小学校花壇が優秀賞に輝き、ホームページや学校だよりで、地域の方々に紹介することができた。



(3) 久米地区市民ギャラリーの開催

今年で5年目を迎える「久米地区市民ギャラリーin久米小」である。中学校や中学校区の小学校からも作品の参加があり、今年度も11月の2週間の期間で開催された。

地域の各種団体からも多くの作品参加があり、感染症対策を施しながらではあるが、鑑賞に訪れる方も多くあった。



3 成果

学校を花いっぱいにして地域の方を学校に招き、学校で育てた花や野菜を観賞してもらう企画であった。この一年コロナ禍であったが、本校の活動として定着している「久米小学校市民ギャラリー」と並行して野外ギャラリーとしたため、無理なく受け入れられた。地域に向けて野菜を販売するなど、地域の方々とのふれあい活動を実施することは難しかったが、「花いっぱい野菜いっぱい運動」を展開することで、子供たちが土に触れ、命を育てる経験をする事が出来た。

4 今後の課題

今年度の活動の様子を写真やホームページなどで地域に発信することで紹介し、来年度以降の地域交流の手段として展開していけるように、活動をつないでいきたい。